

意見交換資料

意見交換資料 「事例から考える支援のあり方について」

事例 【同居男性から暴力を受けている疑いのある男児】

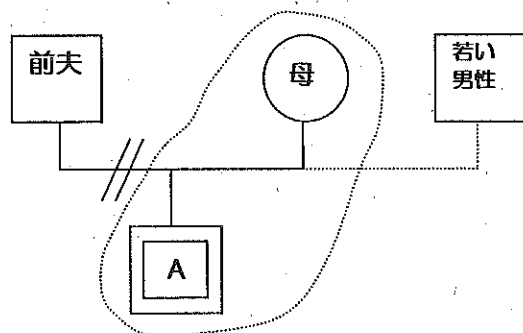
4歳のA君は、母親と二人暮らしの家庭です。

保育所に登所してきたA君の頬に、赤い痣があるのを担当の保育士がを見つけ、送ってきた母親にどうしたのかと聞いたところ、母親は、「ちょっと・・・」と言葉を濁しました。担当の保育士が、後でそっとA君に痣の原因を尋ねると、「僕が言うことを聞かなかったから、お兄ちゃんが叩いた。」と話しました。

A君の母親は、A君の父親とは離婚し、A君を引き取って育てていますが、最近若い男性の車に母親とA君が同乗しているのを、保育所の職員が見かけたとのこと、また、A君の話では、お兄ちゃんと呼ぶ男性は、A君の自宅で寝食を共にしているとのことです。

今後の虐待の再発を防止するため、関係機関が連携し、どのような支援ができるのでしょうか。

〔世帯の状況〕



- A君は母親と二人暮らしの世帯
- 母親はA君の痣について詳しく語らない。
- A君はお兄ちゃんが叩いたと話した。
- A君や母親と一緒にいる若い男性の姿が見られる。

〔対応のポイント〕

- ◇A君や世帯の特定・・・◆過去の通告履歴を含め、確認できる情報を集積。
- ◇A君の安全確認・・・◆保育所と連携し通告内容を伝え、A君の身体チェック及び痣の状態を写真などで記録してもらうよう依頼。
 - ◆保育所を訪問し、センター職員がA君を現認し、痣の状態を確認。
- ◇緊急度の判断
 - ◆初期調査結果を基に、対応の緊急度を判断。
 - ※緊急度が高い場合は、至急児童相談所に相談、援助を依頼。
- ◇保護者から分離（緊急度が極めて高い場合）◆宇治児童相談所による一時保護等
- ◇虐待の事実の確認
 - ◆A君が話した内容が事実であったのかどうか、暴力を振るっているのは誰なのかの確認。
 - ◆地域の民生児童委員への聞き取り。
 - ◆母親から再度話を聞く機会を設定（保育所・センター）
 - ◆保健推進課など、A君への関わり経過のある部署からの情報を確認。
- ◇母子に対する支援・・・◆母親：まずは、暴力でしつけることは、子どもにとって決してプラスにはならないこと、暴力は虐待にあたることを伝える。同居男性からの暴力であれば、暴力からA君を守るよう意識を変えてもらう。
 - ◆A君：保育所の保育士など身近な関係職員による観察。
- ◇関係機関の連携による対応・・・◆個別ケース会議の開催 役割の明確化、援助方針の決定